

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 12 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 1.7 m ³ /h	33.9	106.6 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.03 vol%
		給水系：約 3.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 6.0 m ³ /h	46.7	14.29 kPa g	A系:0.14 vol% B系:0.13 vol%
		給水系：約 2.7 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 5.0 m ³ /h	54.2	0.26 kPa g	A系:0.17 vol% B系:0.15 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・6/12 15:45 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 3.3m³/h から約 3.5m³/h、炉心スプレィ系からの注水量を約 1.8m³/h から約 2.0m³/h に調整。

【2、3号機】

・6/12 15:45 2号機原子炉への注水量について、炉心スプレィ系からの注水量を約 6.0m³/h から約 5.5m³/h に(給水系からの注水量は約 2.7m³/h から約 3.0m³/h に調整)、3号機原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約 2.8m³/h から約 3.5m³/h に変更(炉心スプレィ系からの注水量は約 5.0m³/h で継続)^{*1}。

※1:1~3号機の原子炉の注水量については、当初の注水量^{*2}を継続すると、夏期の外気温度の上昇に伴い、原子炉圧力容器・格納容器の温度が緩やかに上昇し、3号機の温度が1、2号機の温度と比較して若干高い温度となることが予想され、保安規定上の運転上の制限に対する余裕が小さくなることから、注水量を変更することとした。

※2:1号機:6.5 m³/h、2号機:約 9.0 m³/h、3号機:約 7.0 m³/h(全て5月 29 日時点)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.0
2号機	循環冷却システム	運転中	24.6
3号機	循環冷却システム	運転中	23.3
4号機	循環冷却システム	運転中	31

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/27 14:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/10 8:26 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/12 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上